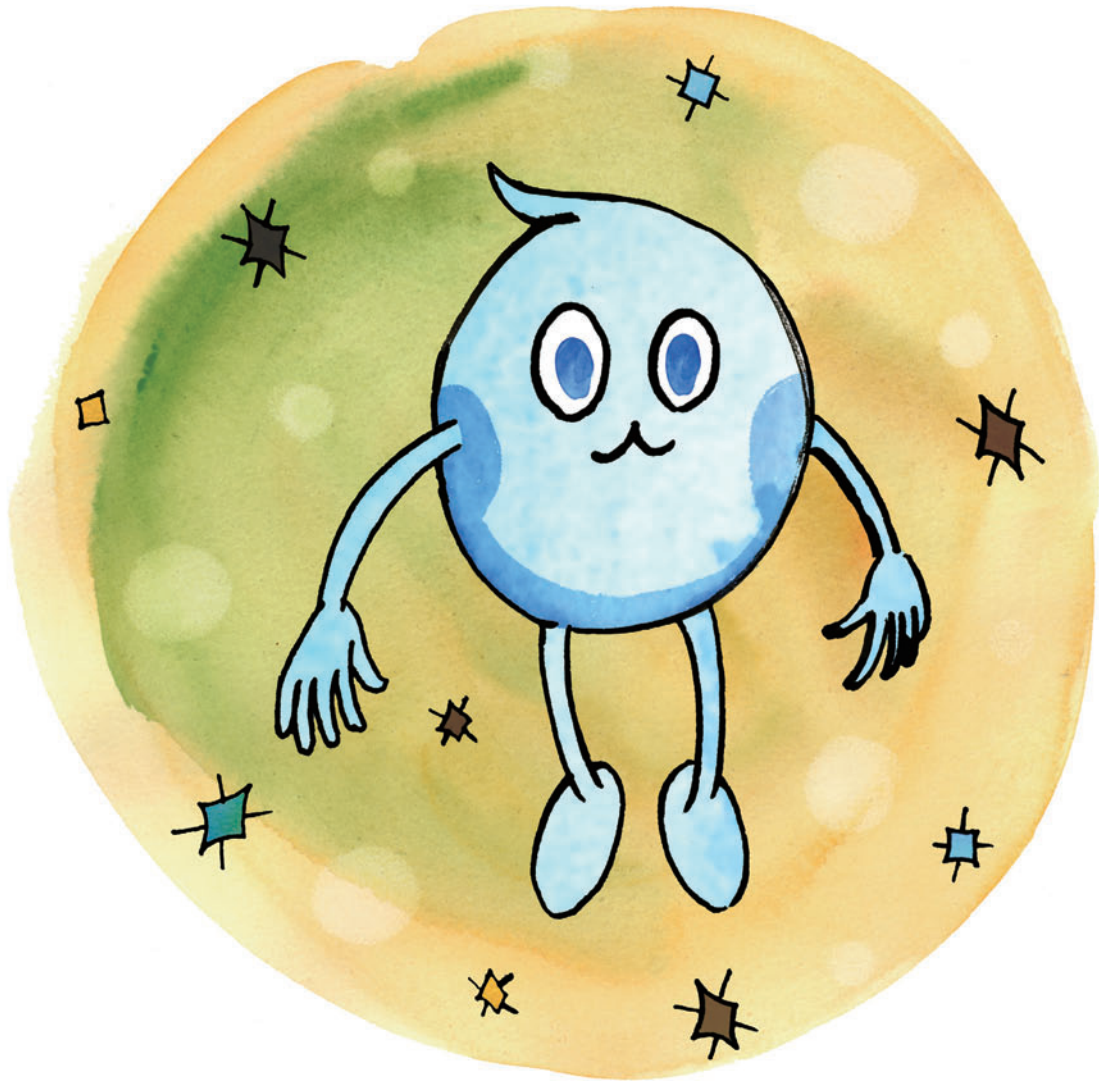


ハリーの冒険

地球を助ける小さな友達



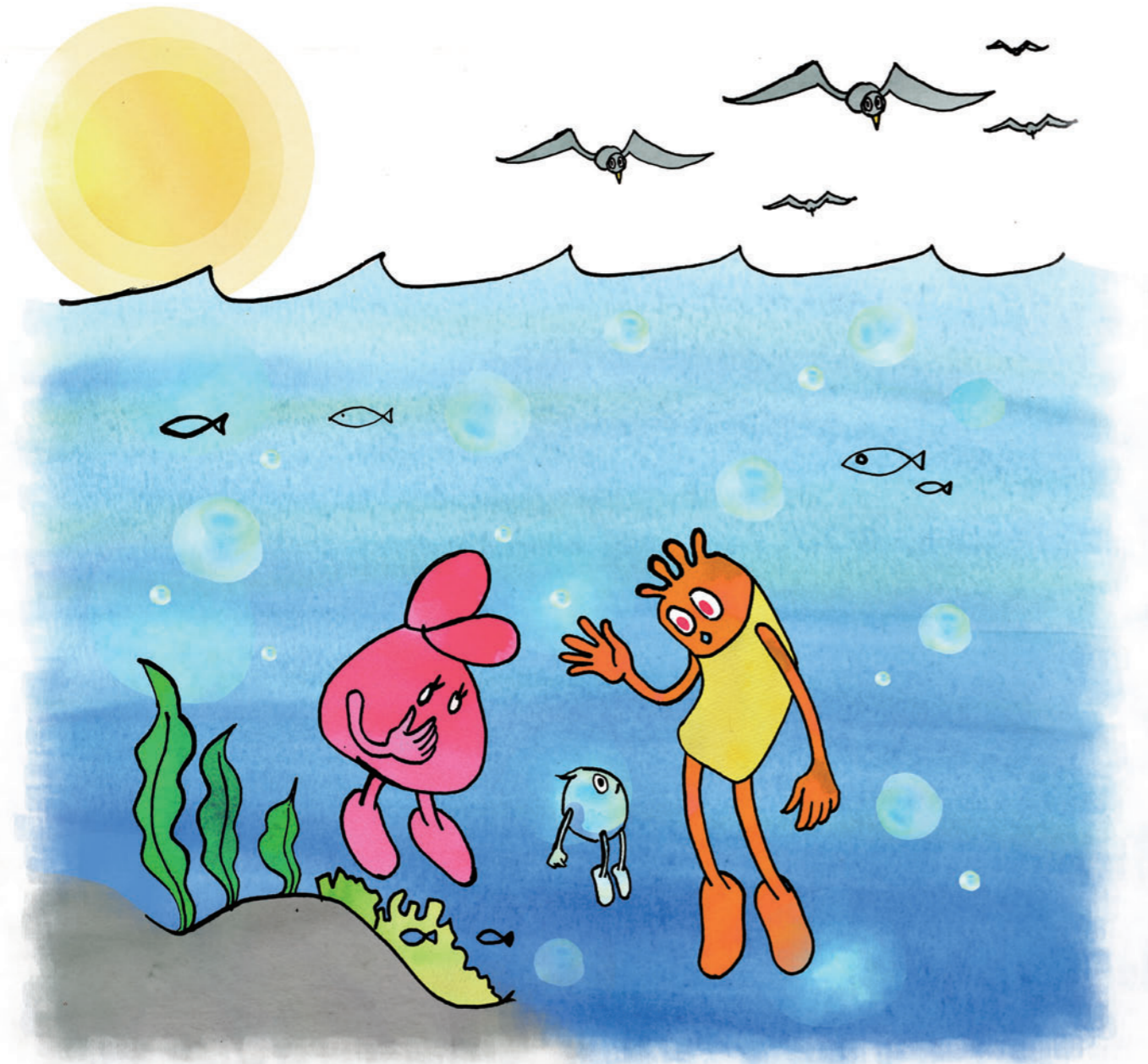


昔々、ひとはもちろん、植物も動物も
生まれていなかったころの地球のお話。
そのころの地球には酸素はなく
生きものは住めない環境でした。
しかし、そこには小さな小さな微生物
が住んでいました。
名まえはハリーといました。

ハリーはちょっと変わり者でした。
酸素が嫌いで、毒いっぱい食べものが大好きだったのです。
毎日毎日、地球にあふれた毒をおなかいっぱい食べていました。
ぱくぱくぱくぱく。ぱくぱくぱくぱく。
すると、なんだかオナラがしたくなりました。
プシュー。なんと、その先から別の生きものが生まれたのです。
一人ぼっちだったハリーは大よろこび。



次から次へと食べては、オナラをして友達を作りました。
オナラは酸素や水で、そこからいろいろな微生物が生まれたのです。



友達にかこまれ、うれしさでいっぱいのはりーでしたが
だんだん自分の体が小さくなっていくのを感じました。
友達は聞きます。

「どうしたの、体が小さくなってよ」

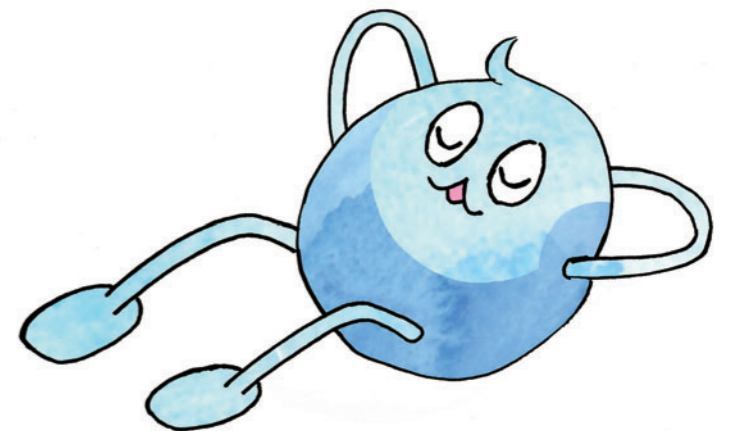
「実は最近、たべるものがなくなってきてしまったんだ」

見れば、あたりは太陽や水、植物や動物であふれ、
以前の毒でいっぱいだった地球はありませんでした。

はりーは友達にいいました。

「しばらく眠るから、また必要に
なったら起こして」

「うん、わかった」



長い長い月日が流れました。

地球にはふたたび、ひとが作り出した毒がいっぱい広がり

ひとも鳥も魚もとても困っていました。

ハリーの耳元でささやく友達がいます。

「ハリー、起きてよ。また悪いやつらをやっつけてよ」

ハリーはパチッと目を覚ましていました。

「まかせて。僕が全部毒を食べてあげる」

ぱくぱくぱくぱく。ぱくぱくぱくぱく。

すると地球はまた少しずつキレイになっていきました。

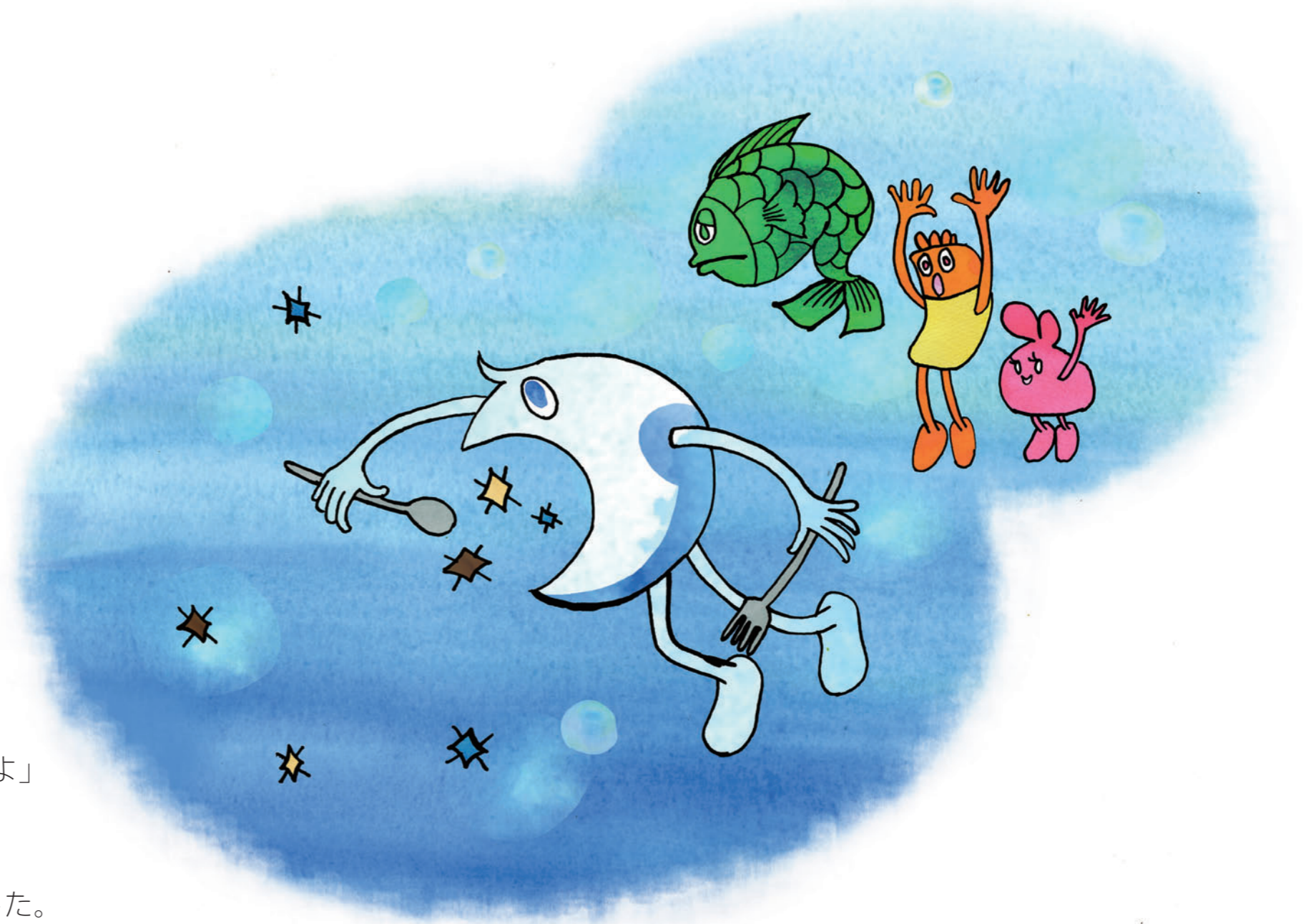
世界中の人がハリーにお礼をいいます。

「ハリー、ありがとう。水がきれいになったよ」

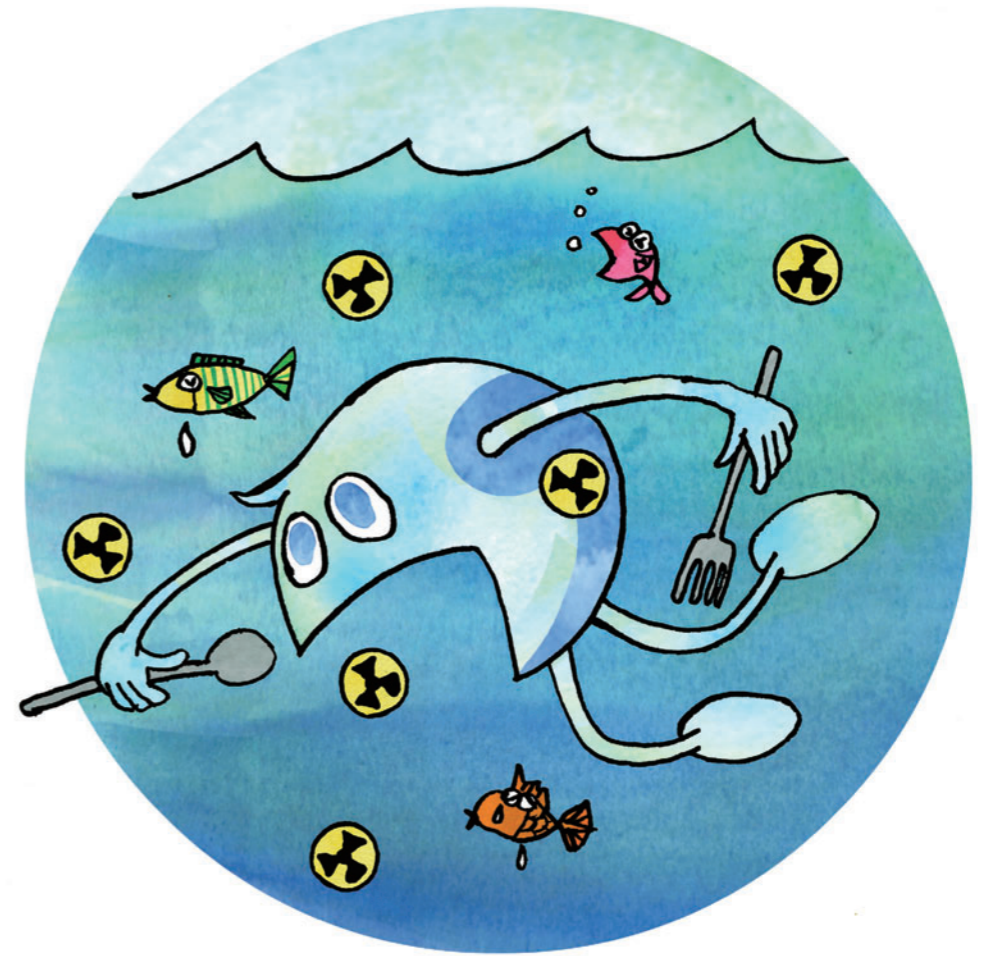
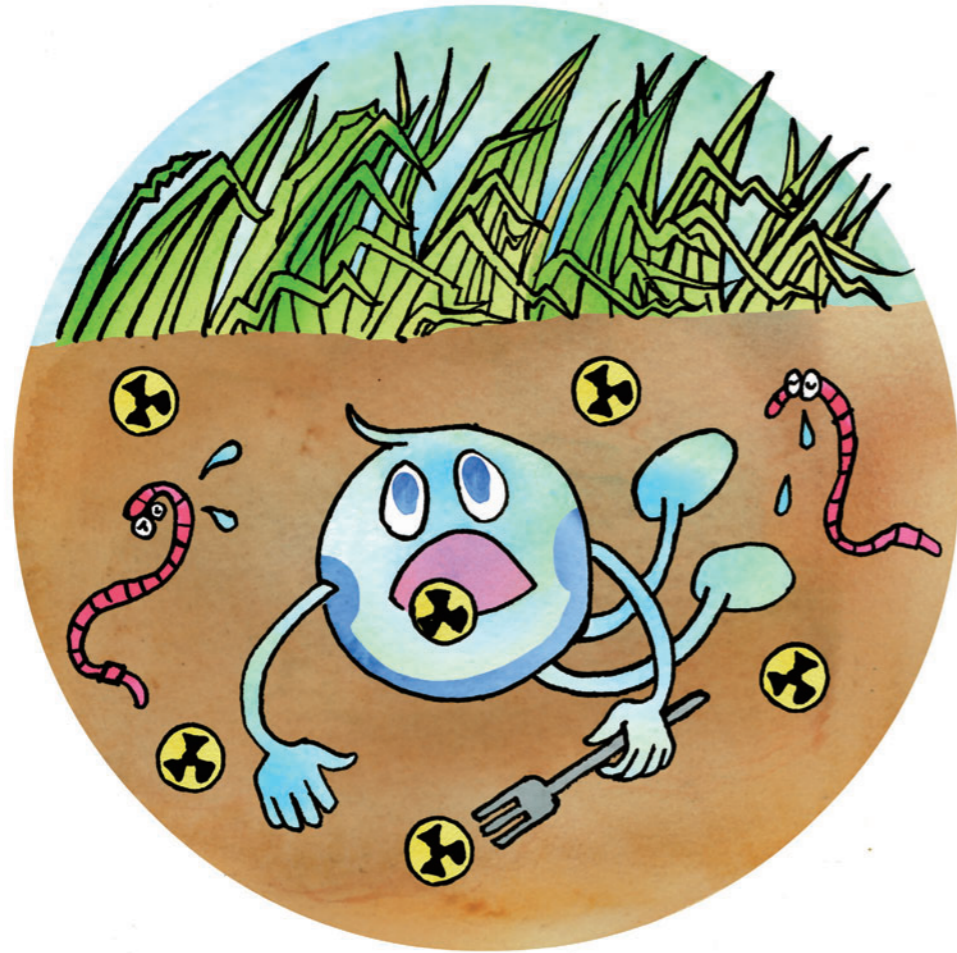
「ハリー、ありがとう。おいしい野菜がとれるようになったよ」

「ハリー、ありがとう。なんだか体の調子がいいよ」

日本では道頓堀川や日本橋川など、いろいろな所で食べました。



しかしあるとき、今まででもっとも有害な毒が
風によって運ばれてきました。
人も地球もみんな元気がなくなってきています。
ハリーはみんなにいいました。



「僕をいろんなところに連れて行ってよ。
そしたらもっと食べるよ。地球がピンチのときこそ僕の出番さ」
そうしてハリーは日本中、そして世界中を旅し
ますます張り切って、ぱくぱく食べだしました。

やがて、少しずつ地球は元気を取り戻しはじめ
ひとも鳥も魚も土も、もとのようになってきました。
でも完全に元のように戻るには
まだまだ時間がかかりそうです。

人がずっと生まれるまえ
宇宙のどこからかやってきて、
地球に住み始めた微生物ハリー。
地球をもとのように元気にするには
ハリーの手が必要なのかもしれません。

